

市民ネット通信

臨時号

プルサーマルを考える
柏崎刈羽市民ネットワーク

<http://www.kisnet.or.jp/net>

〒945-1102 柏崎市向陽町 1279-215

電話 0257-32-8818

発行 2001年12月10日

極めて深刻な浜岡原発事故

静岡県浜岡原発で起きた二つの事故は、原子力発電にとって極めて深刻な問題である。

緊急炉心冷却システムの爆裂—頼れない最後の安全装置

11月7日、浜岡原発で定期の緊急炉心冷却装置（ECCS）のテスト中、高圧注入系の配管が爆裂した。ECCSは、原子炉が暴走し、炉心溶融の恐れが出ると、高圧の水を炉心に注入して、核反応をおさえ、炉心溶融に至らせないという装置である。推進側にとってはいわば最後の砦であるのだが、その実効性については以前から疑問が呈されてきた。今回の事故は、そのECCSが、きちんと作動するか否かという問題以前に、いざというとき壊れてしまうという事を実証したわけである。ECCSは原子力発電所の運転上、もっとも大掛かりな安全装置であり、その故障は絶望的に重大な問題なのである。

圧力容器本体からの水漏れ—相次ぐ原発心臓部の破綻

引き続き発見された、原子炉圧力容器からの水漏れは、制御棒挿入部付近の溶接部のひび割れが原因で、前項のECCSの問題とともに、多くの国内の原発が抱えている危険性だと報道されている。しかも、圧力容器という最も核心の部分からの漏水を数ヶ月に渡って見逃していたという事は、運転技術上の問題があることを疑わせる。東海地震間近といわれる中で、危険性は重大である。

また、福島では格納容器内で制御棒などを支えるシュラウドと呼ばれる金属にひび割れが見つかった。これが壊れた場合、炉内はその重さで崩れ落ち、炉心溶融につながるという大問題である。修理を想定されていない部分であり、修理のための大勢の労働者の大量の被曝が心配される。

もはや、原子力技術の安全性は完全に砂上の楼閣となってしまった。反原発の人々が指摘してきた多くの危険性のうちでも、重大な部分の問題が、次々と現実のものとなってきている。シュラウドや原子炉圧力容器のひび割れで、大量水漏れや制御不能状態が発生、地震であれば他の部分も壊れ所内停電、緊急冷却しようにも蒸気使用のポンプも破裂し不能。そしてメルトダウン・・・最悪のシナリオの各パーツが現実のものとなっている。本当に重大事故発生が目前まで来ているのではないだろうか。



爆裂した厚さ11ミリの配管

海山町の住民投票で三度示された民意—これが世界の潮流だ

そのような中で行われた海山町での住民投票では、原発誘致反対票がダブルスコア（反対67.5%）で圧勝した。計画中の巻町、運転中の刈羽村について、計画発表前の地点でも圧倒的な反対の民意が示され、三度の住民投票は全て原子力にノーを突きつけた。

いまや、国や電力会社の頑固な推進姿勢にも関わらず、世界の脱原発の流れは日本にも確実な潮流として根づいてきつつあるのである。

プルサーマル計画を中止しよう！

さらに、テロ問題以降、原発の危険性が、クローズアップされているが、もはや、原発を持つ事自体が、爆弾を背中に担いで暮らすような、危険な状況を作り出している。せめて、危険性を上積みするプルサーマルだけでも止めて欲しい。そう願う市民の気持ちは切実である。市民ネットは三年前からプルサーマルの中止を求めてきたが、状況はこの三年だけでも大きく変化した。世界の変化の中で、日本政府、電力会社、行政のみが方向転換できずにいる。もはや、プルサーマルに未来はない。プルサーマル中止をはっきりと決定しよう。